

# 大分県病院協会報

第34回病院学会特集号〈2017.3〉



## 第34回大分県病院学会

「上善は水の如し」〜不撓不屈の精神でみんなのために〜

### ○特別講演

演題「どうなる、どうする民間病院—医療情勢激変を迎えて」

講師:公益社団法人 全日本病院協会 常任理事  
「病院のあり方委員会」委員長  
社会医療法人 禎心会 札幌禎心会病院 理事長・院長  
徳田 禎久 先生

### ○シンポジウム

テーマ 「おもしろき医療・おもしろき介護」  
シンポジスト

- ▷「ケニア国における医療支援」  
医療法人光心会 諏訪の杜病院  
院長 武居 光雄 先生
- ▷「骨髄炎治療における中国病院支援」  
～中国との交流20年を振り返って～  
社会医療法人玄真堂 川島整形外科病院 副総院長  
かわしまクリニック 所長 田村 裕昭 先生
- ▷「『医砥ばたカフェ』へお越してください!」  
～医療過疎地域において医療の原点を問う～  
社会医療法人社団 大久保病院  
理事長 大久保 健作 先生

**日時** 平成28年 11月13日 (日)  
受付開始: 8:00～

**会場** ビーコンプラザ  
別府市山の手町12-1

【お問合せ先】 一般社団法人 大分県病院協会  
〒870-0100 大分市大字駄原2892-1 大分県医師会館内5F  
TEL: 097-540-5526 FAX: 097-540-5597 E-MAIL: oitahospitals2@ilac.ocn.ne.jp

【主催】 一般社団法人 大分県病院協会 【共催】 全日本病院協会 大分県支部 【後援】 大分県・別府市・大分県医師会 他36団体

## 第34回病院学会を終えて



一般社団法人大分県病院協会会長 **川 眞 人**  
 (社会医療法人玄真堂 理事長 川 眞 人 川 眞 人 整形外科病院)

去る11月13日、別府の国際会議場・ビーコンプラザにおいて第34回大分県病院学会が約2,500人の出席者の中で盛大に開催され、無事に終えた事に感謝致します。

この、大分県病院協会は全国的にも珍しい協会で大分県のほぼ全ての民間病院が登録されており、全国的にも極めて統一のとれた協会である事で知られています。当初は、約200人の規模で開催されていた学会も歴代の事務局長並びに役員の方々、そして70人を超すボランティアの方々の努力のお陰で最近の6年間は2,000人を超える盛大な学会となっている事は全国的にも注目されています。

当初は、病院の質を上げる事を目的として病院評価機構等について勉強することが多かったのですが、近年は毎年違うテーマでそれぞれの病院の独自性を発揮した質の高い発表が行なわれるようになった事も嬉しく思っています。特に医療の安全やサービスの向上、経営状況の改善、マネジメントに関する多くの事を自ら学ぼうという姿勢は、私が最初から考えていた通りの方向であり、また毎行われる特別講演やシンポジウムも時期を得たテーマの発表が続いています。今回の『「上善は水の如し」～不撓不屈の精神でみんなのために～』というテーマは、NHKの大河ドラマ『軍師官兵衛』の黒田官兵衛の座右の銘です。これは、水は周りの状況がどんなに変わろうとも四角い枠に四角くはまり、丸い枠には丸く収まるが、時には怒濤の如く激流になり、また大海となって万物を養うものであるという意味です。我々は、国内外を問わず不透明な時代にあって“不撓不屈”の精神でみんなのために頑張ろうという思いを込めてこのテーマにした事が、今回のシンポジウムにも表れていると思います。また、今回は特別講演として全日本病院協会の常任理事で“病院のあり方委員会”の委員長である徳田禎久先生による『どうなる、どうする民間病院 一医療情勢激変を迎えて一』というテーマで非常に詳しい医療情勢の分析の中で、2025年に向けてどのような医療政策が行なわれ、また病床の編成がどのように行われるかという大変詳細なお話であり、資料の内容も精細なものでした。このような情報の中から自分達の病院の行く末をどのような方向に考えるのか、非常に良いチャンスになったと思います。

更にシンポジウムでは『おもしろき医療・おもしろき介護』という事で、アフリカのケニアを中心として医療支援を行っている諏訪の杜病院 武居光雄院長の『ケニア国における医療支援』、そして中国の医療支援を行っているかわしまクリニック所長(元川眞整形外科病院院長)田村裕昭先生による『骨髄炎治療における中国病院支援 ～中国との交流20年を振り返って～』、次いで大久保病院 大久保健作理事長による『「医砥ばたカフェ」へお越しく下さい! ～医療過疎地域において医療の原点を問う～』という三人三様のユニークなテーマであり、またユニークな活動を

通して病院内のモチベーションを上げ、活性化を行っているという事が伝わってきました。このように絶えずチャレンジ精神と不撓不屈の精神で立ち向かえれば、黒田官兵衛のように“負けない戦い”、つまり“負けない医療や介護”が出来ると信じていけると思います。また、一般の発表やポスターセッションにおいてもそれぞれに理念に基づいて様々な患者さんのためにどうしたら良いかという事に対するマネジメントやサービス向上の工夫などが発表され、様々なディスカッションが行われた事を大変喜ばしく思います。この力を持っていけば2016年度の学会も、いかに医療情勢が厳しくなるうとも不撓不屈の精神で“負けない戦い”をやって頂ける事を心から信じられる力強い学会であった事を報告致します。

最後に当院では“温故創新”の精神を持って精進するために開業以来、毎月曜日の朝礼で以下の“七つの誓い”を全員で唱和しているので参考までに記載しておきます。

#### 七つの誓い

1. 生命を尊重し、医療の公共性に基づき、社会に奉仕することを第一前提とする。
2. 病に対する同情といたわりの心を持って、診療を行い、患者さんに優しく親切に接すること。
3. 人間形成と医療技術の研鑽をたえずおこたらないこと。
4. 自らの仕事に対する責任を自覚し、より質の高い任務遂行のための努力及び創意工夫をおこたらないこと。
5. 院内ではお互いの任務を尊重し、互いに譲りあって、誠実、協調、和の精神を尊ぶこと。
6. 公私の区別を明確にし、清潔で規律ある院内にすること。
7. 省資源、省エネルギー時代の中で、光熱費の節約に努力し、物品を大切にする気持ちを養うこと。